

学校点描

クマの出没の報告が相次いでいます。学校だけでなく、各家庭においても自衛のための工夫をお願いしたいです。

《K中学校》

NO.15 R2. 11. 4

担当：校長

10月24日（土）は、今年度初の試みの『合唱発表会』でした。無観客でカメラの前での合唱、それも練習したのは音楽の授業のみという状況でした。1年生、2年生の合唱は、正直もう少ししっかり歌って欲しいなあという感じでした。発表会の当日にあわてて歌詞を覚えようとしている生徒もいました。しかし、そんな思いも3年生の合唱が吹き飛ばしてくれました。3Aの自由曲「虹」も、3Bの自由曲「手紙」も、聞いているだけで泣けてきそうでした。ステージの上に立つソプラノパートには、少ない人数にもかかわらず声量十分の美しい声で歌う女子生徒がいることを知りました。また、1年生から3年生までのどのクラスの伴奏者にも驚かされました。誰も途中で止まることなく最後まで伴奏を通しました。中には、M・Rさんのように、ピアノを習っていないにもかかわらず一生懸命練習して、見事に弾き終えた生徒がいたことを、後になって音楽の植木先生から聞いて驚かされました。

新しい試みをしたことで、生徒にもっとがんばってもらいたい面や、ふだんは見えていなかった幾人かの生徒の努力している姿が、はっきり見えてきたように思いました。

さかなのなみだⅡ

わたしのところに、事務主査の斉藤先生からトイレットペーパー購入の“支出命令伺い”があがってきました。要するに、「これを買っていいですか？」という決済を求める紙です。わたしがそれに、「いいですよ」という意味のハンコを押します。これで無事に、トイレットペーパーが購入できるわけです。ハンコを押すときに、ふと思い出したことがあって、斉藤主査に、普通のトイレットペーパーよりちょっと高いトイレットペーパーを100個買って欲しいんだけど」と逆にわたしからお願いしました。

そのトイレットペーパーとは、ただのトイレットペーパーじゃないんです。トイレットペーパーを伸ばしていくとこんなことが書いてあるのです。

『中学時代のいじめも、小さな部活動でおきました。ぼくは、いじめる子たちに「なんで？」ときけませんでした。でも仲間はずれにされた子と、よくさかなつりに行きました。学校から離れて、海岸で一緒に糸をたれているだけで、その子はほっとした表情になっていました。話をきいてあげたり、励ましたりできなかったけれど、だれかが隣にいただけで安心できたのかもしれません。ぼくは変わりものですが、大自然のなか、さかなに夢中になっていたらいやなことも忘れます。大切な友だちができる時期、小さなカゴの中でだれかをいじめたり、悩んでいたりしても楽しい思い出は残りません。外には楽しいことがたくさんあるのにもったいないですよ。広い空の下、広い海へ出てみましょう。』

これは、無類の魚好きで有名な“さかなクン”という人が、中学時代に経験した、いじめについて書いているトイレトーパーなのです。さかなクンについては多くの方が知っているでしょう。ハコフグの帽子をかぶって「ギョ、ギョ、ギョッ！」と言いながら、お魚の豊富な知識と経験に裏付けされたトークをする人です。あるテレビの歌番組では、楽器のサックスを演奏していたのを見て、その多才さに驚かされました。



その著書「さかなのなみだ」でさかなクンが言っています。『メジナという魚は、狭い水槽に入ると、必ず1匹仲間はずしを行います。仲間はずれになった1匹をすくって、別の水槽にいれると、今度はまた、別のメジナが仲間はずれに遭う、それを繰り返す。でも、メジナは海に出ると、まったくそんなことをしないのです。』

いじめは、狭い集団や、狭い人間関係の中でこそ発生する、それは魚も人間も同じなんだと、さかなクンは、考えたのです。だからこそ、もっと将来のことを考えたり、世の中のことを考えたり、たくさんの人と出会ったり、挑戦することが中学時代には大切なんだと。職業体験で町内の大人の人から話を聞いたり、習ったことのないピアノに挑戦したり、与えられたパートの歌を一生懸命表現したりするのは、自分の狭い世界を広げるひとつの“きっかけ”です。自分の世界を広げる“きっかけ”は、いろいろなところに転がっているのです。

「音楽好きの人たちと出会ったことで、魚だけの世界から広い世界を知りました。」と、テレビの中のさかなクンは語りました。

高校に入学したとき『吹奏楽』部を『“水槽”楽』部と勘違いして入部したのがきっかけだったのです。

出典：さかなのなみだ（リヨン社）

きりとり

ご意見・ご感想をお願いします。

限られた数のトイレトーパーですので、すべてのトイレにいつもあるとは限りません。